取付店の方は必ずお読みください

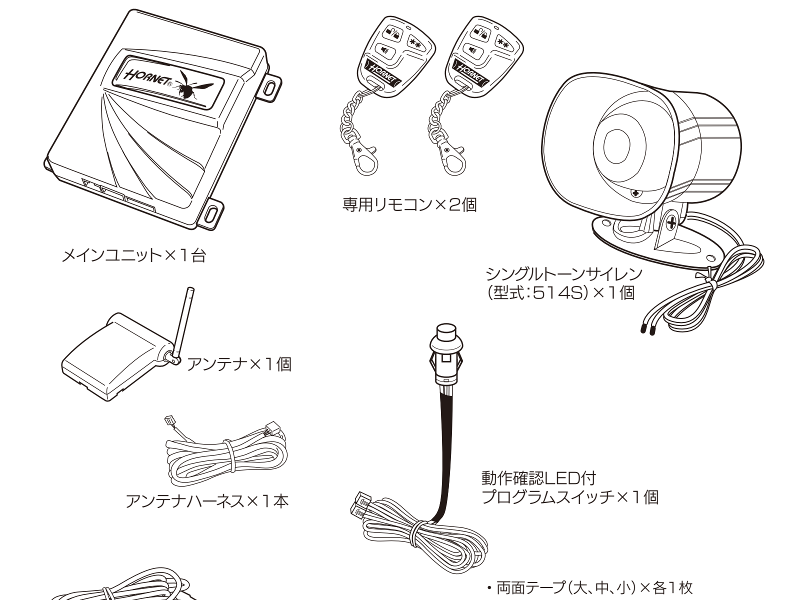
ホーネット 701VS取付説明書

取り付けミスは誤作動や車両の電装品に悪影響を与える原因となります。
車両電装の知識不足による誤った配線方法により車両の破損、故障が発生しても
当社では一切の責任を負いかねます。

KATO-DENKI

GI-S432

701VS の梱包物 (取り付けの前に必ずご確認ください)



・両面テープ(大、中、小)×各1枚
・マジックテープ×1組
・エレクトロタップ×1個
・結束バンド (長)×3本
(短)×5本
・ボルト(M6×10)×2本
・タッピングビス×2本
・ダイオード×5個

書類梱包物の明細は
取扱説明書をご覧ください。

※ステッカーはフロントガラスには貼らないでください。
側面ガラスに貼る場合は、ステッカー全体がガラスの開口部の下縁から100mm以下、かつガラス開口部の後縁から125mm以内におさまるように貼ってください。また、ステッカーの再発行は致しません。
※本製品の仕様およびデザインは性能向上等のため、予告なく変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

取付上および安全上の注意

必ずお読みください

●国産車限定
日本国内メーカーの車両に対応しています。
並行輸入車、外国車への取り付けサポートは行っておりません。
●本製品の衝撃センサーは取り付ける位置によって感度が大きく変わります。
●本製品は、車両盗難、車上狙い等を抑制するものであり、完全に防止するものではありません。
●当社では製品の検査、修理時の代品貸し出しなどは一切行っておりません。また、検査、修理時に発生した工賃等の諸費用はお客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。
●本製品はアナログ制御になります。コンピューターによるデジタル多重電送通信線への接続はできません。接続をした場合は本製品のみならず車両の機器を破損する恐れがあります。
●車種により本製品の接続が不可能な場合があります。

危険

●知識のない方が取り付けを行うと車両、システムの故障・損傷のみならず、人体にも危険が及ぶ恐れがあります。
●DC12V車両専用。24V車両には装着できません。

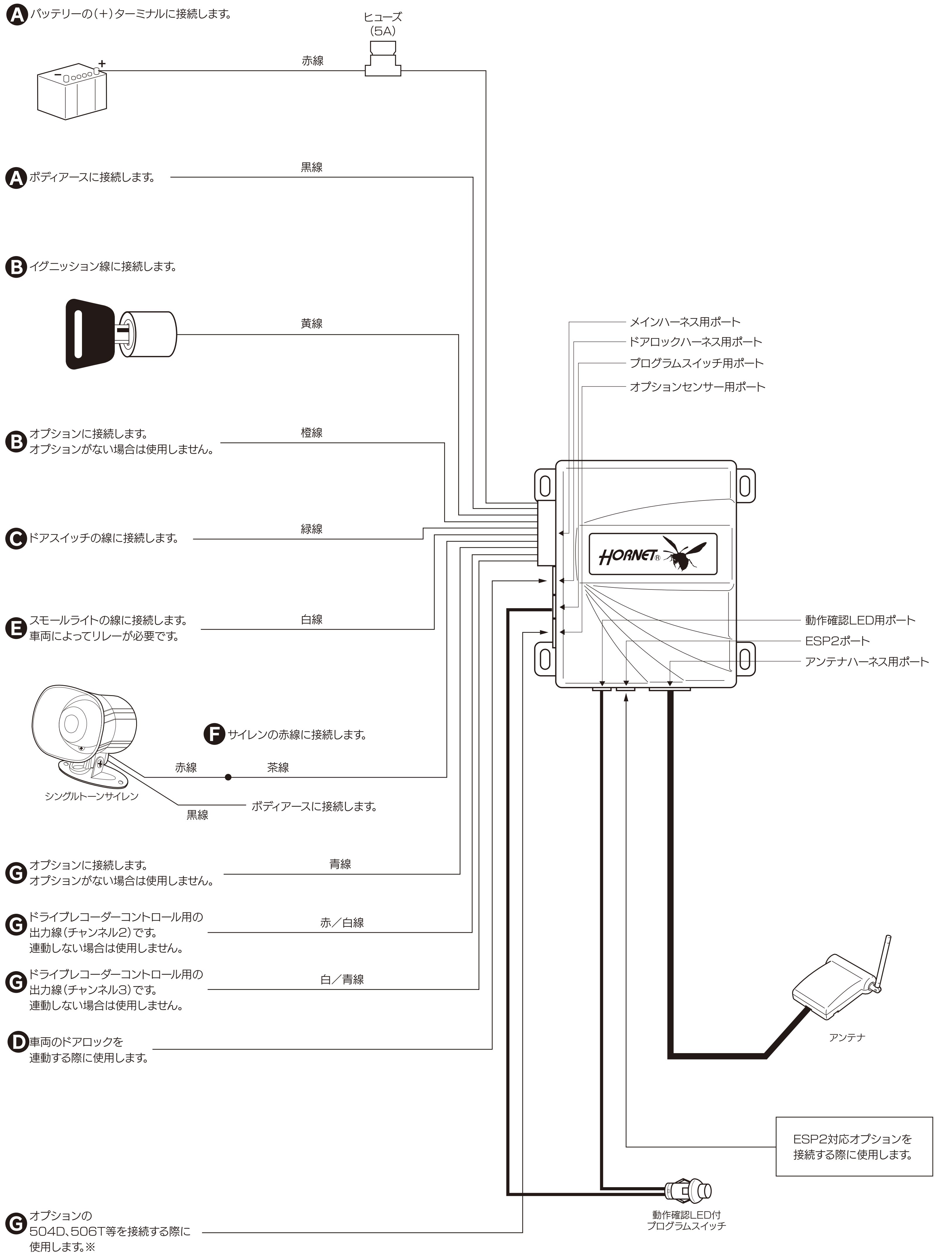
警告

●エアバッグ（SRS）装備車、ボディコンピューター、その他特殊な装置を装備している場合にはバッテリーの配線やヒューズを抜くなどして電源供給を止めないように留意してください。電源が切断されると車両側が故障し機能しなくなる場合があります。また、誤作動により人身事故につながる恐れがあります。
●メインユニットおよびオプション製品等の取り付けの際は必ずエンジンを停止して換気のよい場所で行ってください。
排気ガスが充満して危険です。
●各部品をパネルなどに取り付けの際は、他の機器に影響を与えない場所に設置してください。特に駆動部やブレーキパイプ、ホース類には設置しないでください。
●必ず正しい取り付け、配線を行ってください。取り付けおよび配線を誤ると、車両の装置、機器類を破損あるいは損傷する恐れがあります。
●メインユニットやオプション製品を水、湿気、熱、湯気、ほこり、油などの多い場所に保管、設置しないでください。
火災、感電、故障などにより死亡や大けがになる恐れがあります。

注意

●メインユニットから各種オプション部品の配線、接続を行った場合には保護のため貫通口に必ずゴムブッシュなどを使用してください。
また、電線保護のためコルゲートチューブ（コンジットチューブ）などをご使用ください。
●SRSエアバッグや盗難防止機能付ラジオを装備した多くの車両はバッテリーが外されたことをメモリーする機能を有しています。このメモリー状態を解除する場合は専用のIDコードが必要となり、その車両を購入したディーラーでなければ解除できなくなることがあります。
●取付終了後、必ず取り付けをした機能のすべてをテストしてください。
●車両のバッテリーが弱っている場合など車両本来の機能に不備がある場合には、システムが正常に作動しないことがあります。常に車両の整備が行き届いた状態での取り付けを行ってください。
●使用しない配線は必ず絶縁処理を行ってください。
●エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

接続全体図

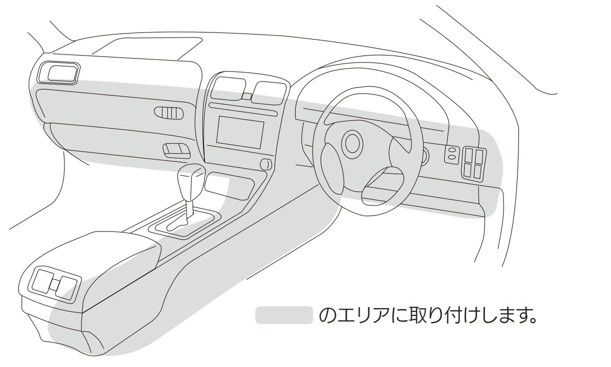


※633M/633Pは配線の仕様が異なるため、メインハーネスの青線、橙線を使用して接続してください。

A～G の表記について：接続の詳細は裏面をご覧ください。

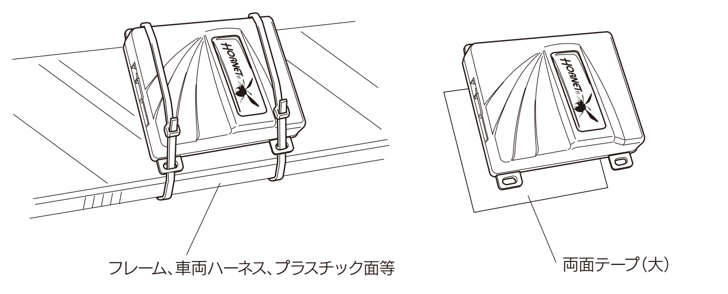
メインユニットの取り付け

【取付位置例】



メインユニットをしっかりと固定します。

例）結束バンド等で固定する場合　　例）両面テープで固定する場合



結束バンドと両面テープを併用するとより効果的です。

設置禁止場所

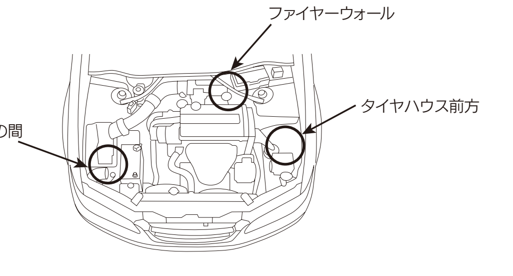
・エンジンルーム内
・フロントガラスおよびリアガラス直下等、直射日光の当たるところ
・運転席の足元（ペダルの裏など）
・車両のコンピューターやカーナビ・カーオーディオ等の電装機器に近いところ（60cm以上離してください）
・エアコンのダクト

シングルトーンサイレンの取り付け

クルマのボンネットを開けて、シングルトーンサイレンの取り付けスペースを確認します。

スピーカーは次の条件をすべて満たす場所に設置してください。
・雨天時、走行時などでも水・油分がかからないところ
・熱源（エンジン本体、排気系など）から 30cm 以上離れ、高温にならないところ
・駆動部の妨げにならないところ

【取付位置例】

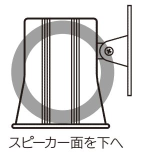


【取付方法】

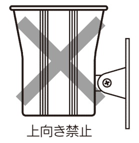
シングルトーンサイレンの固定金具部を車両に設置済みのボルト穴を利用して確実に固定します。タッピングビスをご利用の場合には固定に注意してください。鉄板の薄い箇所に使用すると抜けやすく、取付不良になる可能性があります。

【取付方向例】

良い取付方向の例：ステイの位置に関係なくスピーカー面をできる限り下向きに設置します。



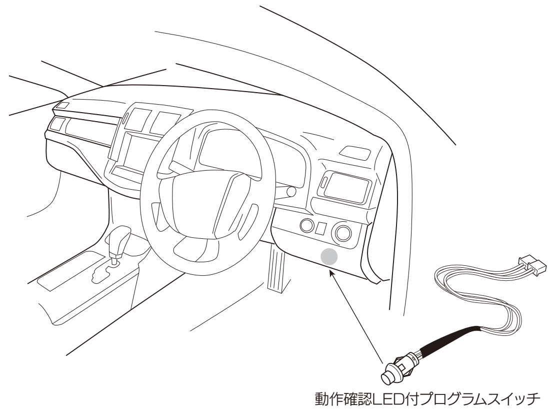
悪い取付方向の例：スピーカーが上を向いているとスピーカー面から水・油分が浸入して回路を破損する可能性があります。（防水構造ではありません）

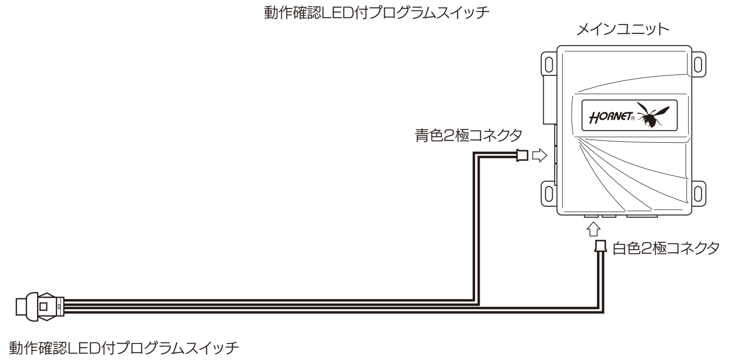


動作確認 LED 付プログラムスイッチの取り付け

動作確認 LED 付プログラムスイッチは、運転席まわりや車外から確認しやすいダッシュ付近のブランクパネルなどに埋め込み設置してください。
埋め込む際は、直径約 8mm の穴をあけます。
※メインユニットのカプラ色と動作確認 LED 付プログラムスイッチのコネクタ色を合わせて差し込みます。

【取付位置例】



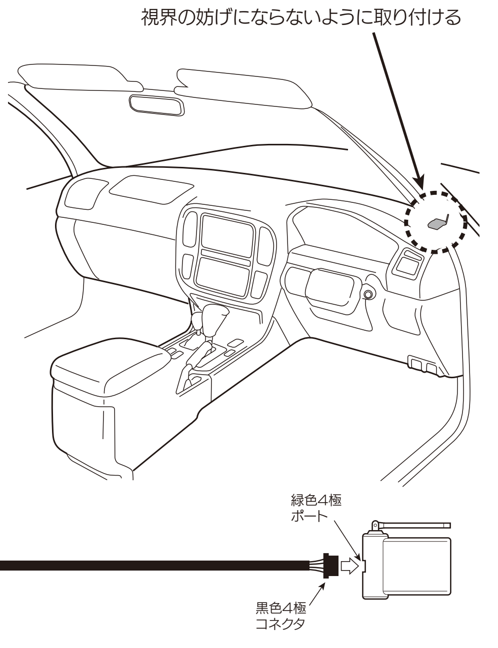


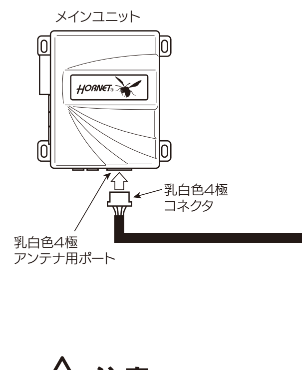
注意

●車両パネルへ穴をあける際は、パネルが傷つかないように養生テープを貼るなどして保護してください。

アンテナの取り付け

ダッシュボードに取り付けします。
視界の妨げにならないように確実に固定してください。
配線をパネル内に隠す場合には、線がつぶれないように注意してください。
アンテナのケーブルはメインユニットのアンテナポートに接続します。





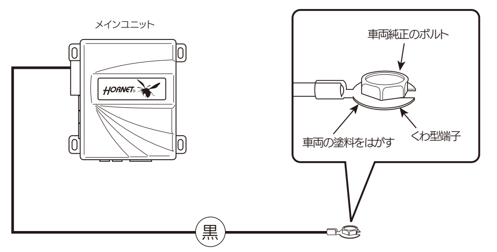
注意

●金属部へ直接アンテナを貼り付けると感度が鈍くなる場合があります。
●アンテナ線はできるだけ伸ばした状態で取り付けしてください。
●フロントガラスには貼付しないでください。

Ⓐ 電源線の接続

黒　(−) 電源 (ボディアース)

メインユニットのアース線（黒線）を市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。車両に装着済みのボルトなどを利用すると便利です。



⚠ 注意

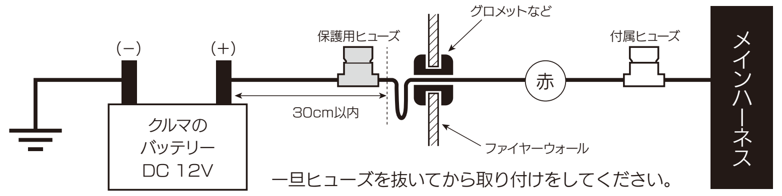
テスター等でボディアースである事を確認の上、接続してください。

赤　(+) 電源 (+12V)

電源接続をする前に、一旦メインハーネス付属のヒューズを抜いてから接続を行ってください。赤線、黒線の 2 本の線が接続し終わった際にヒューズを差し込みます。
取り外したヒューズは、なくさないように保管してください。

バッテリーの（+）ターミナル、又はイグニッションハーネス内の常時（+）12V 電源線等に接続します。

例）車両のバッテリーの (+) ターミナルに接続する場合
バッテリーから30cm以内に保護用のヒューズ（メインハーネスの赤線に付属のヒューズと同じ容量のヒューズ）を入れてください。



⚠ 注意

- ●車両のボディコンピューター等の設定がリセットしてしまう可能性がありますので、バッテリーを外す際には、バックアップをとるなどの処理をしてください。
- ●メインハーネスに付属のヒューズは、メインユニット保護用です。この目的以外には、使用しないでください。
- ●電源をオーディオなどと同様の部分から取得した場合、電源容量が足りなく動作しなかったり、ノイズなどの影響を受けることがありますので、避けてください。
- ●エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

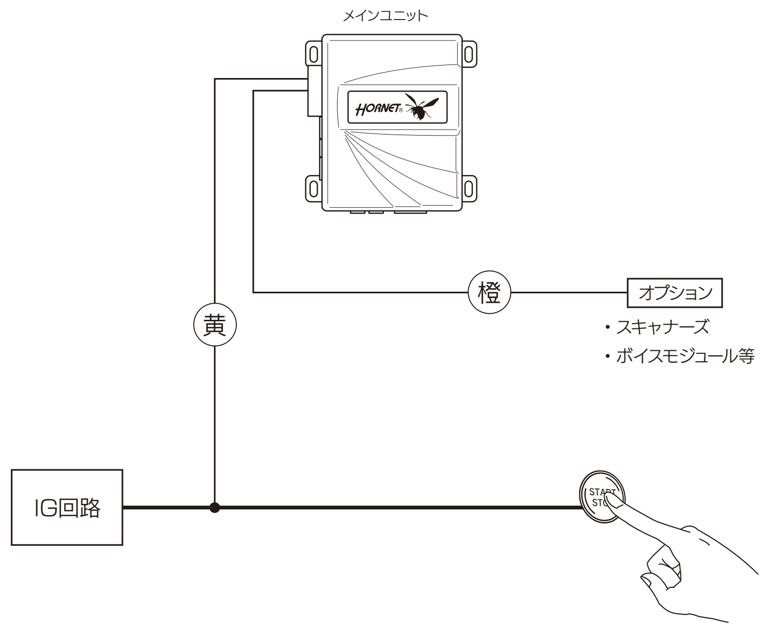
Ⓑ イグニッション線およびシステム作動出力線の接続

黄　(+) イグニッション入力

イグニッション ON（キー ON もしくはプッシュスタートボタンを 2 回押す）にした時に（+）12V を示す線に接続します。

橙　(−) 500mA　システム作動出力

システム作動中に連続したアース信号を出力します。
オプションがない場合には絶縁処理をしてください。



Ⓒ ドアトリガー線の接続

緑　(−) ドアトリガー入力

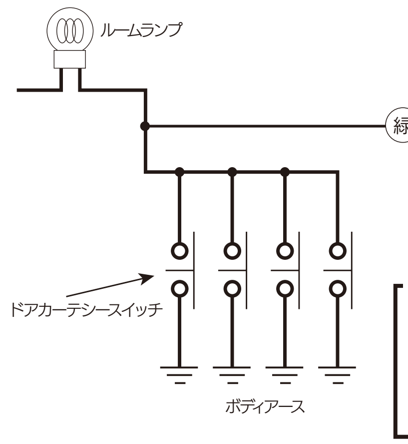
車両のドア（テールゲート／ハッチ含む）が開いたときに、ボディアースと導通する（または 0V 付近まで電圧降下する）配線に接続します。
接続先は主に車両のドアカーテシースイッチ（ドアスイッチ）になります。

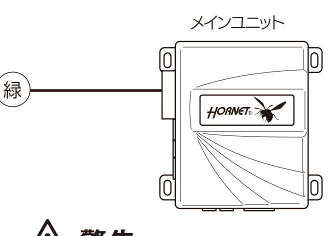
<見つけ方>
① 計測器（テスター）を DC または DCV にセットしてください。
② （−）検針をボディアースに接続します。
③ （+）検針をテストする線にあてます。
　ドア閉、ルームランプ消灯の状態からドアを開け、ルームランプ点灯と同時に0V付近まで電圧降下する配線を探します。
④ 見つけた線が全てのドアを開けても信号が取得できることを確認します。

⚠ 注意

- ●各ドアのドアカーテシースイッチが独立している場合には、ドアトリガー線（緑線）を分岐する必要があります。分岐する場合は配線全てにダイオードを入れてください（5個同梱）。
- ●ドアカーテシースイッチがないドアには取り付けできません。
- ●残照灯付車の場合には、残照灯が消える前にセキュリティを作動させると、センサーレポート音が鳴ることがあります。ただし、残照灯が消えてから5秒後に自動的にドアトリガーは復帰しますので、センサーとして問題はありません。

【ドアスイッチが１ラインで接続されている車種への接続例】

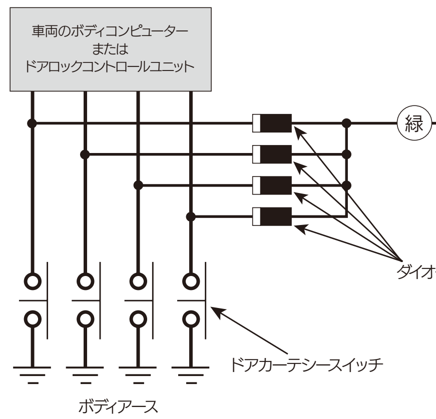




⚠ 警告

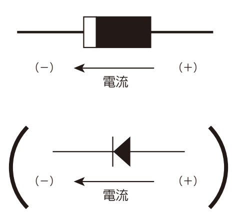
上記取り付けは必ず車両電装に関する取付技術のある取付店にご依頼ください。知識のない方が接続を行うと、車両、HORNETのみならず、人体にも危険が及ぶ可能性があります。

【ドアスイッチが独立してコンピューターに接続されている車種への接続例】



ドアトリガー線（緑線）を分岐して接続する場合には、必ず分岐した全ての配線にダイオードを接続してください。

⚠ ヒント



ダイオードって何?

ダイオードとは、電流の流れを一方通行にするための電子部品です。接続する方向を間違えると電流が流れなくなり、正常に作動しなくなります。
電流は左の図のように、帯のような印のある方向に向かって流れます。
ドアトリガー線を配線する場合、複数に分岐した時には必ずダイオードを正しく接続してください。

リモコンの同調（登録） 特許

⚠ ヒント

【リモコンの同調について】
ホーネットシリーズのリモコンは、リモコンごとに異なったIDコードを使用しています。（コードは7378京6976兆通り以上）
お客様が新しくリモコンを使用する場合には、リモコンのIDコードをメインユニットに登録する作業が必要になります。この登録作業を「リモコンの同調」といいます。
製品を初めて取り付けした時、新しいリモコンを増設する時には、必ず以下の手順で使用するすべてのリモコンの同調を行ってください。

《同調の手順》
① ホーネットのメインハーネス（電源線があるハーネス）を抜きます。
② 数秒時間をおいて、メインハーネスを差し込みます。
③ 5 秒以内に（電源投入音「ピッピーピ」が鳴る前に）リモコンの ボタンを押します。
④ 確認音「ピッ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの ボタンを押します。
⑤ 確認音「ピッピッ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの ボタンを押します。
⑥ 確認音「ピーピ」が鳴ったらボタンをはなし、そのまま待ちます。
⑦ 約 5 秒後に、自己診断終了の確認音「ピッピーピ」が鳴ります。
⑧ 設定終了です。
※各操作を 5 秒以内に行わないと、同調が完了せずに設定を終了します。最初からやり直してください。

	アドレス 1	アドレス 2	アドレス 3	アドレス 4	
工場出荷時のリモコンの登録状態	リモコン 1	リモコン 2	空き	空き	
リモコン 3 を同調	リモコン 1	リモコン 2	リモコン 3	空き	
リモコン 4 を同調	リモコン 1	リモコン 2	リモコン 3	リモコン 4	
リモコン 5 を同調	リモコン 5	リモコン 2	リモコン 3	リモコン 4	~~リモコン 1~~

リモコン 5 を登録すると、最初に同調をしたリモコン 1 が追い出されます（押し出し式）。

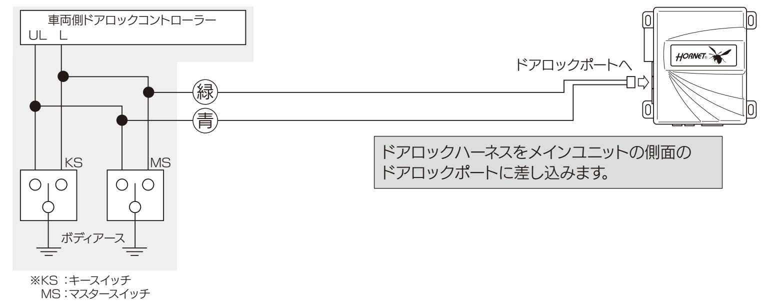
⚠ 注意

- ●5個目のリモコンを設定した場合には、最初に設定されていたリモコンのIDコードが押し出されます。
- ●リモコンを紛失した場合は、リモコンのすべての登録を抹消するため、残りのリモコンで4回同調を行い、紛失したリモコンのIDを押し出してください。第三者のリモコンでは本製品のコントロールができなくなります。
- ●それぞれの手順が5秒以内に行われない場合は、同調されないまま設定を終了します。

Ⓓ ドアロック出力線の接続

●車両にドアロックスイッチがあり、そのスイッチのコントロール方式がマイナスコントロールの場合

タイプ B（マイナスコントロール方式）



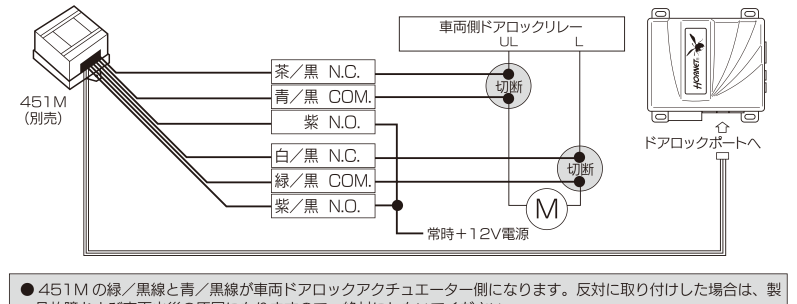
※KS：キースイッチ
　MS：マスタースイッチ

⚠ 注意

- ●モーターを直接動かしてロック／アンロックを行う場合など、上記取り付けタイプに該当しない場合には別途オプション（451M、525T等）が必要になります。
  取り付け方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

●ドアロックをコントロールするスイッチ（ドアロックスイッチ）が無い場合
●運転席にドアロックアクチュエーターが有る場合
●集中ドアロック機能がある場合

タイプ C（極性反転方式）

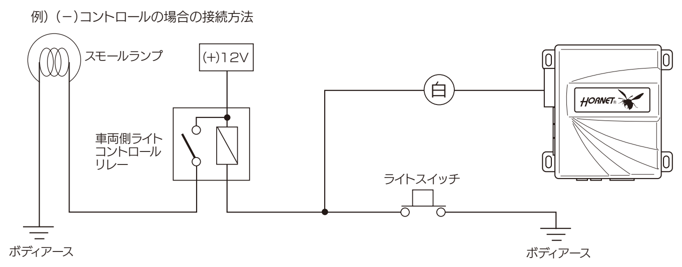


- ● 451M の緑／黒線と青／黒線が車両ドアロックアクチュエーター側になります。反対に取り付けした場合は、製品故障および車両火災の原因になりますので、絶対にしないでください。
- ●本製品には、ドアロック機能（マイナスコントロール）が内蔵されているため、451M のドアロック信号ハーネスを本製品のセカンドコネクタに差し込みます。

Ⓔ ライトフラッシュ線の接続

白　(−) ライトフラッシュ出力

この線を接続するとスモールライトを点滅させ、HORNETの作動状況の確認や威嚇ができます。
スモールライトが（−）コントロールの場合には直接ライトスイッチの信号線に接続します。



スモールライト (−) 線の見つけ方
スモールライトの（−）コントロール線は、通常ステアリングコラムのライトスイッチ裏にあります。ライトスイッチからリレーに対して（−）信号を送る仕組みになっている車両の場合には、以下に示す方法でコントロール線を探してください。

① 計測器（テスター）をDCまたはDCVにセットしてください。
② （−）検針をボディアースに接続します。
③ （+）検針をテストする線にあてます。
　ライトスイッチをスモールONにし、スモールライト点灯と同時に0V付近まで電圧低下する配線を探します。

⚠ 注意

スモールライトが（+）コントロールの場合には必ずリレー（525T）を使用してください。

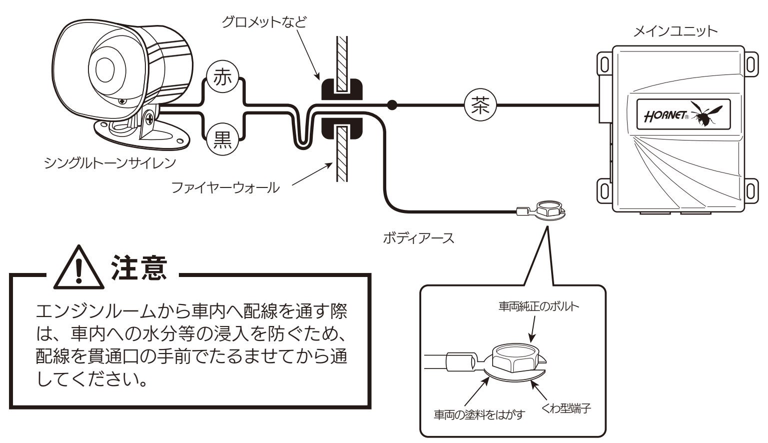
⚠ 警告

車両側の信号線をチェックする際には、検針が他の信号線などに接触しないように特に注意してください。回路などがショートし、車両部品、本製品に損傷を与える可能性があります。

Ⓕ サイレン線の接続

茶　(+) サイレン出力

配線を室内に引き込んだ後、シングルトーンサイレンの赤線をメインユニットの茶線に接続します。
シングルトーンサイレンの黒線は市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。



⚠ 注意

エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

Ⓖ その他の配線の接続

センサー入力線の接続

青　(−) センサー入力線

オプションセンサーやスイッチ等から（−）信号を受け取り警報を発します。
オプションセンサーを連動する場合に使用します。連動しない場合は、必ず絶縁処理してください。取り付け方法は、各オプションの説明書をご参照ください。
※出荷時は警報が鳴りますが機能設定項目10の設定にて警報ではなく警告を鳴らすことができます。

マルチプレックス対応オプションセンサーとの接続

マルチプレックス対応のオプションセンサーを接続する場合は、オプションセンサーの4極コネクタを本製品のセンサーポートに差し込みます。配線の取付方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

チャンネル出力線の接続

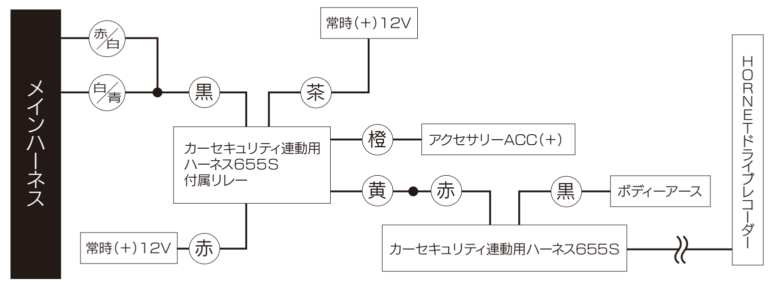
赤／白　(−) 200mA　ドライブレコーダーコントロール線 (チャンネル2出力)

機能設定（取扱説明書P15）を変更することでドライブレコーダーコントロール機能をご利用いただけます。リモコン録画機能を使用する場合は、【リモコン録画・センサー連動録画するための配線方法例】を参照の上、結線してください。

白／青　(−) 200mA　ドライブレコーダーコントロール線 (チャンネル3出力)

機能設定 (取扱説明書P15) を変更することでドライブレコーダーコントロール機能をご利用いただけます。センサー連動録画機能を使用する場合は、【リモコン録画・センサー連動録画するための配線方法例】を参照の上、結線してください。

【リモコン録画・センサー連動録画するための配線方法例】
カーセキュリティ連動用ハーネス655S（別売）を使用した場合の信号系統図



ESP 搭載オプションとの接続

ESP搭載オプションを併用する場合は、ESPハーネスを本製品のESP2ポートに差し込みます。配線の取付方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

メインユニットのチェック方法

メインユニットの取り付け、配線が終了したら、本体の機能チェックを行ってください。
テスト手順は次の通りです。

1：オン、オフの確認
□エンジンを停止し、すべてのドアを閉めてください。
□リモコンの ボタンを1秒ほど押すごとに、確認音が鳴ってシステムON／OFFすることを確認してください。
□リモコンの ボタンを1秒ほど押して、確認音が1回鳴る（システムONする）ことを確認してください。

システム状態／ ON　5 秒以上待ちます

2：ドアトリガーの確認
□それぞれのドアを開けたとき、サイレンが鳴ることを確認してください。
□リモコンの ボタンを1秒ほど押してハイセキュリティ解除をしてください。

システム状態／ ON　5 秒以上待ちます

3：2段階衝撃センサーの確認
□げんこつでフロントガラスを軽く叩いてみてください。この時、警告音（ピッピッピッ…）が7〜10回ほど鳴ることを確認してください。
※機能設定にて警告音を「ON」に設定する必要があります。
□げんこつでフロントガラスを強く叩いてみてください。この時、サイレン音（ピーピーピー…）が鳴ることを確認してください。
※サイレンモードの感度が高すぎると警告音が鳴らず、即サイレン音が鳴ります。お客様のご希望に応じて感度を調整してください。

システム状態／ ON

4：メモリー機能確認
□リモコンの ボタンによりシステム解除した際に、確認音が4回（ピッピッピッピッ）と鳴ることを確認してください。

システム状態／ OFF

5：パニックモードの確認
□リモコンの ボタンを1.5秒以上押したとき、サイレンが鳴り出すことを確認してください。
□リモコンの ボタンをもう一度1秒ほど押してサイレンが止まることを確認してください。

システム状態／ OFF

❗ 必ずお読みください

- ●上記により数回確認を行った結果、正常動作が確認されなかった場合は、「故障かな?と思ったら」（取扱説明書参照）に従って対策をご確認ください。ホーネットは出荷時に全品正常に作動することを確認しています。
  ※テストの際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意してください。